

2025年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年4月14日

上場会社名 株式会社ピクルスホールディングス 上場取引所 東
コード番号 2935 URL https://www.pickles-hd.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 影山 直司
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務部長 (氏名) 三品 徹 TEL 04-2931-0777
定時株主総会開催予定日 2025年5月28日 配当支払開始予定日 2025年5月12日
有価証券報告書提出予定日 2025年5月28日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年2月期の連結業績（2024年3月1日～2025年2月28日）

（1）連結経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年2月期	41,518	△3.5	1,279	△23.3	1,345	△24.1	958	△18.4
2024年2月期	43,028	4.8	1,668	8.4	1,771	7.3	1,175	3.2

（注）包括利益 2025年2月期 992百万円（△17.5％） 2024年2月期 1,202百万円（3.3％）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	％	％	％
2025年2月期	77.09	74.66	5.3	4.6	3.1
2024年2月期	94.29	91.98	6.7	6.6	3.9

（参考）持分法投資損益 2025年2月期 13百万円 2024年2月期 7百万円

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2025年2月期	30,242	18,884	61.0	1,482.42
2024年2月期	27,713	18,254	64.6	1,438.45

（参考）自己資本 2025年2月期 18,436百万円 2024年2月期 17,890百万円

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年2月期	831	△4,693	1,082	4,974
2024年2月期	2,718	△950	45	7,754

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 （合計）	配当性向 （連結）	純資産配当率 （連結）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	％	％
2024年2月期	—	0.00	—	24.00	24.00	298	25.5	1.7
2025年2月期	—	12.00	—	14.00	26.00	323	33.7	1.8
2026年2月期（予想）	—	13.00	—	14.00	27.00		33.9	

3. 2026年2月期の連結業績予想（2025年3月1日～2026年2月28日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	21,354	△1.6	930	△16.8	954	△18.5	630	△21.1	50.71
通期	41,000	△1.2	1,500	17.3	1,532	13.9	990	3.3	79.60

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社 (社名) 一、除外 2社 (社名) 株式会社尾花沢食品、株式会社ピククルスコーポレーション札幌

(注) 詳細は、添付資料14ページ「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (連結の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2025年2月期	12,858,430株	2024年2月期	12,858,430株
2025年2月期	421,400株	2024年2月期	421,400株
2025年2月期	12,437,030株	2024年2月期	12,465,232株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(連結の範囲の変更)	14
(表示方法の変更)	14
(セグメント情報等の注記)	14
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15
4. その他	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において判断したものであります。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善に伴い、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰が長期化していることや、物流コスト増加に加え、欧米の高い金利水準の継続に伴う金融資本市場の変動による海外景気の下振れリスクもあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、インバウンド需要の増加により外食需要は堅調に推移しているものの、食料品価格やエネルギー価格など、さまざまなものが値上げされたことにより消費者の節約志向が強まり、内食需要は減少し厳しい事業環境となっております。この影響を受け、漬物などのご飯まわりの関連製品についても、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、北海道から九州まで全国に展開している製造・販売のネットワークを活用し、新規得意先や新しい販路の開拓及び既存得意先の拡販に取り組みました。なお、業務の効率化を図るため、2024年12月1日を効力発生日として株式会社ピクルスコーポレーションは、株式会社ピクルスコーポレーション札幌を吸収合併しました。

販売面では、日頃のご愛顧に感謝し、生活応援の意味も込めて、「ご飯がススムキムチ」シリーズ3品を対象に20gの増量キャンペーンを実施し、「ご飯がススムキムチ」シリーズの販売促進を行いました。また、顧客ロイヤリティ向上を目的として、公式ファンコミュニティサイト「ピクルス食堂」をオープンしました。株式会社フードレーベルにおいては、ドレッシングなどの牛角監修商品などが当選するSNSキャンペーンを実施し、「牛角韓国直送キムチ」や「牛角やみつきになる!丸ごと塩オクラ」の販売促進に取り組んでおります。

製品開発面では、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて、開封してすぐ食べられる、サラダ感覚の浅漬の「液切りいらす おしんこ白菜」や、柔らかくて甘い深谷ねぎを使用した「冬の白菜とねぎの浅漬」などの新商品を発売しました。その他にも、株式会社ピクルスコーポレーション札幌において、北海道長沼町産白菜を使用し、酪農学園大学の学生がレシピ・商品名を考案した「酪農学園大学監修 沼の浅漬」を地域・期間限定で発売しました。

製造面では、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて、2024年12月に茨城工場（所在地：茨城県結城郡八千代町）を新設し稼働開始しております。この工場では、「ご飯がススムキムチ」などを生産しており、機械化を進めて生産効率の向上を図っております。

新規事業では、外食事業及び小売事業を行う「OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～」(所在地：埼玉県飯能市)において、2024年10月には、創業から4周年を迎え、創業祭を開催し、抽選会やワークショップなどのイベントの実施や、レストラン「Femy」において特別コースの提供などを行いました。また、株式会社ベジパルにおいては、干し芋やチップスなど、さつまいもを使用した商品を開発し販売しております。その他にも、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて冷凍食品を開発し、量販店の冷凍食品売場や業務用への拡販に取り組んでおります。

サステナビリティへの取り組みとして、2024年11月に子ども食堂を利用する方々を招待し、株式会社ピクルスファームでのさつまいも収穫や「OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～」でのキムチづくりなどの体験型企画を通じた食育活動を実施しました。

売上高は、「ご飯がススムキムチ」シリーズについては堅調に推移したものの、さまざまなものの価格上昇による消費者の節約志向の影響や、コンビニエンスストア向けの売上が減少したことなどにより減収となりました。

利益については、夏場の高温や夏以降の天候不順、葉物野菜の品薄により引き合いが強まったことなどの要因により、原料となる白菜や胡瓜などの野菜の価格が高騰したことや物流費や人件費の上昇、売上高が減少したことなどの影響により減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は41,518百万円（前期比3.5%減）、営業利益は1,279百万円（同23.3%減）、経常利益は1,345百万円（同24.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は958百万円（同18.4%減）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(流動資産)

当連結会計年度末の流動資産の残高は10,888百万円（前期比1,733百万円減少）となりました。主な増減の要因は流動資産のその他の増加1,019百万円、現金及び預金の減少2,780百万円によるものであります。

(固定資産)

当連結会計年度末の固定資産の残高は19,353百万円（同4,262百万円増加）となりました。主な増減の要因は株式会社ピクルスコーポレーションの茨城工場稼働等による建物及び構築物の増加3,442百万円、機械装置及び運搬具の増加1,401百万円、建設仮勘定の減少478百万円によるものであります。よって、当連結会計年度末の資産合計は30,242百万円（同2,528百万円増加）となりました。

(流動負債)

当連結会計年度末の流動負債の残高は8,019百万円（同1,350百万円増加）となりました。主な増減の要因は1年内返済予定の長期借入金の増加1,265百万円、流動負債のその他の増加406百万円、未払法人税等の減少285百万円によるものであります。

(固定負債)

当連結会計年度末の固定負債の残高は3,339百万円（同547百万円増加）となりました。主な増減の要因は長期借入金の増加524百万円によるものであります。よって、当連結会計年度末の負債合計は11,358百万円（同1,898百万円増加）となりました。

(純資産合計)

当連結会計年度末の純資産合計は18,884百万円（同630百万円増加）となりました。主な増減の要因は利益剰余金の増加511百万円によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2,780百万円減少し、当連結会計年度末には、4,974百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は831百万円（前期は2,718百万円の増加）となりました。収入の主な要因は税金等調整前当期純利益1,305百万円、減価償却費1,005百万円であり、支出の主な要因は未収入金の増減額（△は増加）582百万円、法人税等の支払額667百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は4,693百万円（前期は950百万円の減少）となりました。支出の主な要因は有形固定資産の取得による支出4,694百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は1,082百万円（前期は45百万円の増加）となりました。収入の主な要因は長期借入れによる収入2,190百万円であり、支出の主な要因は長期借入金の返済による支出400百万円、割賦債務の返済による支出163百万円及び配当金の支払額446百万円によるものであります。

(4) 今後の見通し

(全体の見通し)

食品業界は、少子高齢化の影響などから市場規模は大きな成長が見込めないなか、原材料・エネルギー価格の高騰などが続き、厳しい経営環境が継続しております。加えて、消費者の安全・安心への関心は高い状況が続くと考えられ、品質管理の取り組み強化が求められております。

このような状況のもと、当社グループは、営業面では、看板商品である「ご飯がススムキムチ」を中心としたキムチや、浅漬、惣菜等について積極的な提案を行います。SNSとの連携を含め各種商品キャンペーンを実施し、新規取引先の開拓や既存得意先の深耕を図ります。また、商品規格や販売価格の見直しによる値上げに継続して取り組んでおり、2025年5月から「ご飯がススムキムチ」シリーズについても値上げを実施してまいります。

製品開発面では、ナショナルブランド製品の開発や既存製品の見直しなどに加え、新たなカテゴリーの製品や、新たなマーケットで販売できる製品等の開発を行うとともに、他社との共同開発への取り組みも実施してまいります。

製造面では、製品の集約化や、不採算アイテムの見直し、省力化に向けた設備投資を行うことで、生産効率や生産コストの改善を図ります。また、キムチ製品の製造に特化した専用工場として2024年12月に稼働した株式会社ピクルスコーポレーションの茨城工場において効率的な製造を行うことにより、収益の改善を図ります。

品質管理面においては、食品の安全規格であるJFS-B等の仕組みを最大限に活用し、管理レベルの向上を図ります。

原料調達面では、契約栽培の拡大による原料野菜の安定調達や購買方法の見直し、産地の分散化などを継続的に実施し、原料調達コストの抑制を図ります。

物流面では、出荷体制や配送ルートの見直しにより、効率的な配送を実施し、物流コストの抑制を図ります。

新規事業について、外食事業及び小売事業を行う「OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～」(所在地：埼玉県飯能市)では、グループシナジーを活かした商品開発やイベントを実施していきます。また、株式会社ベジパルにおいては、農業事業を行う株式会社ピクルスファームが生産したさつまいもを使用した干し芋などの加工製品を開発し販売してまいります。

管理面では、資格手当支給制度の活用による人材育成や健康経営に取り組みます。健康経営については、当社及び株式会社ピクルスコーポレーションが健康経営優良法人2025を取得しております。今後も、食生活改善、運動機会の増進・習慣定着などの取り組みを通じて、従業員とその家族の健康と幸福を追求してまいります。また、企業の持続的発展には、ESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが不可欠と考えており、事業を通じてサステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

(売上高)

売上高は、各得意先の見込みの積上げにて作成しております。全国ネットワークを活用した積極的な営業活動や、幅広い製品開発に取り組んでいくものの、物価上昇による節約志向の影響を受けることや得意先等の動向を考慮し41,000百万円(前期比1.2%減)を計画しております。

(売上原価)

過去の実績粗利率を基本に前期実績を意識し策定しております。売上原価は、32,580百万円(前期比2.2%減)、売上原価率79.5%(2025年2月期は80.3%)を計画しております。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

販売費及び一般管理費は、物流費、人件費等の経費について、科目ごとに前期実績を勘案し、想定できる要素を考慮して策定しており6,919百万円(前期比0.1%増)を計画しております。

以上の結果、営業利益は1,500百万円(同17.3%増)を計画しております。

(営業外損益、経常利益)

2026年2月期の営業外損益は、前期実績を勘案し想定できる要素を考慮して策定しております。

以上の結果、経常利益は1,532百万円(前期比13.9%増)を計画しております。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

2026年2月期の特別損益は、想定できる要素のみを考慮しております。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は990百万円(前期比3.3%増)を計画しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当連結会計年度 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,754	4,974
受取手形及び売掛金	4,119	4,083
商品及び製品	380	330
仕掛品	66	77
原材料及び貯蔵品	216	318
その他	85	1,104
流動資産合計	12,622	10,888
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,691	8,134
機械装置及び運搬具（純額）	1,564	2,966
土地	6,527	6,527
リース資産（純額）	32	45
建設仮勘定	478	—
その他（純額）	143	115
有形固定資産合計	13,436	17,788
無形固定資産		
のれん	206	107
その他	120	79
無形固定資産合計	326	186
投資その他の資産		
投資有価証券	677	726
繰延税金資産	571	586
その他	78	65
投資その他の資産合計	1,327	1,378
固定資産合計	15,091	19,353
資産合計	27,713	30,242

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当連結会計年度 (2025年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,892	2,974
短期借入金	1,100	1,000
1年内返済予定の長期借入金	400	1,666
リース債務	5	6
未払法人税等	449	163
賞与引当金	163	149
役員賞与引当金	19	16
その他	1,636	2,042
流動負債合計	6,668	8,019
固定負債		
長期借入金	1,628	2,152
リース債務	6	24
繰延税金負債	17	15
退職給付に係る負債	818	836
その他	321	310
固定負債合計	2,791	3,339
負債合計	9,459	11,358
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,803	2,803
利益剰余金	15,315	15,826
自己株式	△499	△499
株主資本合計	17,719	18,230
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	172	191
退職給付に係る調整累計額	△2	14
その他の包括利益累計額合計	170	206
新株予約権	352	426
非支配株主持分	11	21
純資産合計	18,254	18,884
負債純資産合計	27,713	30,242

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
売上高	43,028	41,518
売上原価	34,390	33,325
売上総利益	8,637	8,193
販売費及び一般管理費	6,969	6,913
営業利益	1,668	1,279
営業外収益		
受取利息	0	2
受取配当金	9	10
負ののれん償却額	21	—
持分法による投資利益	7	13
受取賃貸料	33	35
事業分量配当金	8	7
消費税差額	15	—
その他	32	33
営業外収益合計	128	102
営業外費用		
支払利息	6	13
賃貸費用	17	22
その他	0	0
営業外費用合計	24	36
経常利益	1,771	1,345
特別利益		
固定資産売却益	6	—
資産除去債務戻入益	—	4
補助金収入	2	5
受取補償金	10	—
特別利益合計	19	9
特別損失		
固定資産処分損	13	49
特別損失合計	13	49
税金等調整前当期純利益	1,777	1,305
法人税、住民税及び事業税	669	381
法人税等調整額	△66	△32
法人税等合計	602	349
当期純利益	1,175	956
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△0	△2
親会社株主に帰属する当期純利益	1,175	958

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
当期純利益	1,175	956
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30	19
退職給付に係る調整額	△2	16
その他の包括利益合計	27	35
包括利益	1,202	992
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,203	994
非支配株主に係る包括利益	△0	△2

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100	2,803	14,417	△324	16,995
当期変動額					
剰余金の配当			△276		△276
親会社株主に帰属する当期純利益			1,175		1,175
自己株式の取得				△174	△174
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	898	△174	723
当期末残高	100	2,803	15,315	△499	17,719

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	142	—	142	265	0	17,404
当期変動額						
剰余金の配当						△276
親会社株主に帰属する当期純利益						1,175
自己株式の取得						△174
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	30	△2	27	87	11	126
当期変動額合計	30	△2	27	87	11	850
当期末残高	172	△2	170	352	11	18,254

当連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100	2,803	15,315	△499	17,719
当期変動額					
剰余金の配当			△447		△447
親会社株主に帰属する当期純利益			958		958
自己株式の取得					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	511	—	511
当期末残高	100	2,803	15,826	△499	18,230

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	172	△2	170	352	11	18,254
当期変動額						
剰余金の配当						△447
親会社株主に帰属する当期純利益						958
自己株式の取得						—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19	16	35	74	9	119
当期変動額合計	19	16	35	74	9	630
当期末残高	191	14	206	426	21	18,884

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,777	1,305
減価償却費	940	1,005
固定資産処分損益 (△は益)	13	49
固定資産売却損益 (△は益)	△6	—
資産除去債務戻入益	—	△4
補助金収入	△2	△5
受取補償金	△10	—
のれん償却額	98	98
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7	△13
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	2	△3
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	52	42
負ののれん償却額	△21	—
持分法による投資損益 (△は益)	△7	△13
受取利息及び受取配当金	△9	△13
支払利息	6	13
売上債権の増減額 (△は増加)	132	36
棚卸資産の増減額 (△は増加)	10	△63
仕入債務の増減額 (△は減少)	△29	81
未収入金の増減額 (△は増加)	223	△582
その他	△17	△444
小計	3,144	1,488
利息及び配当金の受取額	11	15
利息の支払額	△6	△11
法人税等の支払額	△440	△667
補助金の受取額	2	3
補償金の受取額	7	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,718	831

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△935	△4,694
有形固定資産の売却による収入	12	8
無形固定資産の取得による支出	△15	△6
資産除去債務の履行による支出	—	△6
投資有価証券の取得による支出	△11	△10
投資有価証券の売却による収入	—	0
補助金の受取額	—	1
その他	△0	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△950	△4,693
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△200	△100
長期借入れによる収入	1,500	2,190
長期借入金の返済による支出	△806	△400
リース債務の返済による支出	△8	△8
割賦債務の返済による支出	—	△163
自己株式の取得による支出	△174	—
非支配株主からの払込みによる収入	12	12
配当金の支払額	△276	△446
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	45	1,082
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,813	△2,780
現金及び現金同等物の期首残高	5,940	7,754
現金及び現金同等物の期末残高	7,754	4,974

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲の変更)

従来、連結子会社でありました株式会社尾花沢食品は2024年3月1日付で、また、同じく株式会社ピクルスコーポレーション札幌は2024年12月1日付で連結子会社の株式会社ピクルスコーポレーションと合併し、それぞれ消滅したため連結の範囲から除外しております。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「未収入金の増減額(△は増加)」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた205百万円は、「未収入金の増減額(△は増加)」223百万円、「その他」△17百万円として組み替えております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

当社グループは漬物製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

当社グループは漬物製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
1株当たり純資産額	1,438円45銭	1,482円42銭
1株当たり当期純利益	94円29銭	77円09銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	91円98銭	74円66銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,175	958
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,175	958
期中平均株式数(株)	12,465,232	12,437,030
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	313,888	404,751
(うち新株予約権(株))	(313,888)	(404,751)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

役員の異動（2025年5月28日）

(1) 代表取締役の異動

該当事項はありません。

(2) その他の役員の異動

① 役付取締役の異動

専務取締役 三品 徹（現 常務取締役）

② 退任予定取締役

専務取締役 蓼沼 茂

取締役（社外） 土居 鋭一